教養演習Ⅱ　　相沢 幸悦

授業概要

いわゆるアベノミクスのもとで、円安が進み、株価も上昇してきました。景気も上向き、物価も上昇してきています。長かった超円高・デフレ不況もようやく終わることが期待されています。

本演習では、アベノミクスとはどういうものかを明らかにします。

そのため、戦後の日本経済と金融、資産バブル、平成大不況、政府の経済政策、日本銀行の金融政策について、くわしく指導します。

授業計画

第 1 回	現状の日本経済は
第 2 回	絶望的に貧しかった戦前
第 3 回	戦争放棄と民主化
第 4 回	歴史上まれにみる高度経済成長
第 5 回	高度経済成長がついに終焉
第 6 回	アメリカとヨーロッパへの輸出
第 7 回	日本列島改造論
第 8 回	バブル経済と崩壊
第 9 回	アメリカ型新自由主義の導入
第 10 回	デフレとは貨幣現象なのか
第 11 回	日本銀行のデフレ対策
第 12 回	日本銀行の異次元緩和
第 13 回	デフレ克服は可能か
第 14 回	1 千兆円の政府債務は返済できるか
第 15 回	日本経済のゆくえは
第 16 回	試験

到達目標

デフレが長期化した要因を理解したうえで、日本銀行の異次元緩和によって、本当にデフレを克服できるのかを明らかにします。

アベノミクスというものの概要を理解したもらうことを到達目標としています。

履修上の注意

演習をおこなっている間に、いよいよ、アベノミクスが成功するか否かが、見えてくるはずです。

ですから、新聞をよく読むことや日々のニュースに関心を持ってください。

予習・復習

演習では、資料や新聞記事などを読みます。

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には、復習してください。

評価方法

レポート（70%）、演習での発言（30%）などで評価します。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配ります。

教養演習Ⅱ　　李 相和

授業概要

この演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかり持つこと、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。この演習では、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つこと、また社会への関心、国際的な視野を獲得することができるように指導する。

授業計画

第１回	本演習の進め方や評価方法
第２回	新聞や雑誌の読み方と使い方
第３回	専門的な文章の読解力の向上（１）
第４回	専門的な文章の読解力の向上（２）
第５回	専門的な文章の読解力の向上（３）
第６回	専門的な文章の読解力の向上（４）
第７回	専門的な文章の読解力の向上（５）
第８回	文章の要約力とレジュメの作成（１）
第９回	文章の要約力とレジュメの作成（２）
第 10 回	文章の要約力とレジュメの作成（３）
第 11 回	各自のテーマによる調査発表と討論（１）
第 12 回	各自のテーマによる調査発表と討論（２）
第 13 回	各自のテーマによる調査発表と討論（３）
第 14 回	各自のテーマによる調査発表と討論（４）
第 15 回	各自のテーマによる調査発表と討論（５）
第16回	まとめ

到達目標

この演習は、豊かな人間性を備えた企業人になるために、幅広い教養を身につけることを念頭に置き、大学における学習に必要な基礎的学力を向上させることを意図としている。

履修上の注意

・毎回必ず出席してほしい。
・演習は参加型授業なので、積極的に、発言や議論をしてほしい。

予習復習

・配布資料を事前に目を通しておくこと
・発表や講義の要点をまとめること

評価方法

レジュメの作成と発表、課題提出、ゼミでの積極性などを総合的に評価する。

テキスト

・開講時に指示する。
・必要に応じて、資料を配布する。

教養演習Ⅱ　　一戸 真子

授業概要

様々なテクノロジーの恩恵を受け、私達の生活は益々便利になってきており、かつ情報も各段に増えた中で、生きることはどのようなことであるかについて理解を深めることができるよう、演習を通して指導する。より多くの人々が幸福になるためには、どのような視点が求められているか、経済との関係について深い考察力を養えるように指導する。

授業計画

第１回	人生 100 年の時代の到来
第２回	豊かさと幸福の関係
第３回	お金と幸福の関係
第４回	労働と幸福の関係
第５回	家族と幸福の関係
第６回	健康と幸福の関係
第７回	老いと幸福の関係
第８回	自律と幸福の関係
第９回	宗教と幸福の関係
第 10 回	幸福の様々な指標
第 11 回	国民総幸福量（GNH）
第 12 回	技術革新と幸福
第 13 回	競争社会と幸福
第 14 回	格差社会と幸福
第 15 回	ホモ・エコノミクスと 21 世紀世界経済
第 16 回	試験

到達目標

・幸福とは具体的にはどのようなことを意味するのかについて考えられる。
・経済と幸福の関係について理解を深める。
・幸福と経済の関係性に影響を与える諸要因について理解する。
・ホモ・エコノミクスの考え方について理解を深める。

履修上の注意

特になし。積極的な関心をもっている学生の皆さんを歓迎します。

予習復習

予習（発表準備資料作成）、復習（専門用語の理解）をよくすること。

評価方法

発表点（25 点）、レポート点（25 点）、試験（50 点）

テキスト

ダニエル・コーエン著　『経済は人類を幸せにできるのか？』作品社、2015 年、2420 円

教養演習Ⅱ　　伊藤 孝

授業概要

日本，アメリカなど主要国に所在する大企業の多くは，今日，本国のみならず諸外国でも活発に生産，販売などの活動を行っています。世界各国で活動をおこなう企業は，世界企業，多国籍企業などと呼ばれています。この演習では，日本を代表する世界企業群を個別に取り上げて，国際化の理由，活動内容，現時点の課題などについて，資料に基づき検討します。

日本の企業の国際化について，事例を踏まえて学習し，企業とは何か，国際化とは何かについて，基礎的理解が得られるように指導します。

授業計画

第 1 回	演習の進め方
第 2 回	日本企業の海外進出の現状
第 3 回	トヨタ自動車
第 4 回	日産自動車
第 5 回	ホンダ技研工業
第 6 回	パナソニック
第 7 回	ソニー
第 8 回	ファースト・リティリング（ユニクロ）
第 9 回	セブン・イレブン
第 10 回	サントリー
第 11 回	資生堂
第 12 回	レポートとは何か。何をどう書くべきか。
第 13 回	レポートの発表と討論（1）
第 14 回	レポートの発表と討論（2）
第 15 回	レポートの発表と討論（3）
第 16 回	試験

到達目標

第1に，資料を読み込み，これに基づいて発表し，討論できるようになることです。第２に，日本企業の海外進出，外国での活動についての現状を知ることです。第３に，自分の研究テーマを見つけ，それについて資料を探し，レポートに仕上げることです。

履修上の注意

（1）病気などの場合を除いて，毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は，メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。

（2）演習のメンバーの意見を理解し，それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。

予習・復習

事前に配布する資料をよく読んで予習してきてください。演習の終了後は，何を学んだか，資料などを読み直して復習してください。

評価方法

テキストの報告と討論への参加で 30%，提出されたレポートで 40%，試験 30%で評定します。

テキスト

教科書の使用は予定していません。学習・討論資料を予め配布します。

教養演習Ⅱ　　大江 清一

授業概要

本演習では日本の経営をより深く理解するための準備として、戦後史を中心とした日本経済の変遷と特質を学びます。日本経済は日本的経営の環境要因であり、日本の企業経営が日本経済を支えているという点において、経済と経営の関係は相互に不可分といえます。

経営学は生きた学問として身につけなければなりませんが、歴史的視点を加えることも重要です。日本的経営の環境要因としての日本経済は、過去から積み重ねられた歴史的産物であり、時代の一区切りとして戦後日本経済の移り行きを経営環境の変遷という視角から考察することは、経営学を歴史的かつマクロ面から理解する上で有益と考えられます。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは必須であり、講師は強くこれを奨励します。

授業計画

第１回	ガイダンス ―経済と経営―
第２回	日本経済の発展(1) ―占領期から復興期―
第３回	日本経済の発展(2) ―高度成長期―
第４回	日本経済の発展(3) ―国際化と経済摩擦―
第５回	日本経済の停滞(1) ―バブル崩壊―
第６回	日本経済の停滞(2) ―構造改革の試み―
第７回	日本経済の構造問題(1) ―日本的経済システム―
第８回	日本経済の構造問題(2) ―少子高齢化と労働市場―
第９回	日本経済の構造問題(3) ―社会保障制度の概要―
第 10 回	日本経済の改革(1) ―日本の農業改革―
第 11 回	日本経済の改革(2) ―アベノミクスと成長戦略―
第 12 回	経営環境としての日本経済(1) ―戦後日本経済史と日本的経営―
第 13 回	経営環境としての日本経済(2) ―日本の産業構造と経営戦略―
第 14 回	経営環境としての日本経済(3) ―日本の労働市場と日本的労務管理―
第 15 回	演習のまとめ
第 16 回	期末試験

到達目標

本演習の到達目標は、履修生が戦後日本経済の変遷と特質を経営学的な視点から修得することです。本演習を通して経済と経営の不可分な関係を認識するとともに、歴史的観点から経済および経営事象を捉えることに習熟できれば、将来、履修生が企業を中心とする組織に属した際に直面するであろう様々な環境変化の本質をより的確に判断する能力が得られると考えます。

履修上の注意及び予習・復習

演習で取り上げるテーマをもとにレジメの該当箇所について議論する場合、履修者は積極的に参加することが求められます。演習に参加するにあたっては、事前に配布するレジメの該当箇所を読んでおくことが必要となります。遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮します。

評価方法

演習のテーマに関する発表内容、準備状況、議論への参画度等、演習に対する取り組み度合いを 30%、期末試験を 70%の割合で評価します。期末試験は学期中に取り上げたテーマに関して選択穴埋めあるいは記述式で解答を求めます。出題の意図を理解し、演習で学んだ内容を踏まえて論理的に解答しているかどうかに重点を置いて評価します。

テキスト

テキストはレジメを使用します。参考文献は各講義で明示します。

教養演習Ⅱ　　大塚 浩記

授業概要

１年次の教養演習は，２，３，４年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは，何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく，学生自らが何らかの目的やテーマに対して，何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで，教養演習Ⅱでは学生のプレゼンテーションを前提とした演習を行う。その際の題材は，例年，学生が選択した興味関心のある事項としているが，話し合いの上。統一的なものにすることもある。また，就職に係わる情報は常に意識してもらうように心掛ける。この点で，上記とは別に時事問題に関する新聞記事等を使用した演習を行うこともある。

授業計画

第１回	演習での姿勢とレジュメについて
第２回	テーマの選択と資料収集について
第３回	時事問題（夏季休業中の出来事）を考える①
第４回	１回目のテーマに基づくプレゼンテーション
第５回	〃
第６回	１回目のプレゼンに関係したその続きのテーマの検討
第７回	時事問題（その時点での出来事）を考える②
第８回	２回目のテーマに基づくプレゼンテーション
第９回	〃
第10回	時事問題（その時点での出来事）を考える③
第11回	３回目のテーマに基づくプレゼンテーション
第12回	〃
第13回	レポートの章立てと結論について（可能であれば「パワーポイント」資料の作成を含む）
第14回	提出するレポートの途中経過の報告
第15回	修正したレポートの内容確認
第16回	レポート（場合によっては定期試験）

※　人数等により進度と内容は随時調整します。

到達目標

プレゼン用のレジュメを作成でき，それに基づいた質疑応答ができるようになる。

履修上の注意

人数が少ない場合には，会計ないし経営に関する文献の輪読やレポートを交える。

テーマは上記のとおりだが，到達目標に示したように，講義ではなく演習なので，聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

予習・復習

毎回ではないが，事前に下調べを行い，発表のためのレジュメを作成してくる。

プレゼン後にレポート提出のための修正を行う。

評価方法

平常点４５％・レポート（定期試験）５５％程度で評価する。

なお，既定の出席回数に満たない場合には，原則として単位を認定しない

テキスト

ゼミ生が選ぶテーマによっては使用するかもしれないが，特に使用しない予定。

教養演習Ⅱ　　奥山 忠信

授業概要

1980 年代以降に進行した貧富の格差問題を考える。また格差問題を考えるのに必要な経済学の基本的な理論を学ぶ。

授業計画

第 1 回	演習のスケジュールについての説明
第 2 回	ピケティ理論の概要
第 3 回	格差の指標
第 4 回	格差に関するデータ
第 5 回	格差の理論
第 6 回	資本主義の特徴
第 7 回	資本主義と格差
第 8 回	日本の格差
第 9 回	アベノミクスの特徴
第 10 回	貨幣数量説の形成
第 11 回	量的緩和対策
第 12 回	貨幣の謎
第 13 回	日本経済の変化
第 14 回	日本経済の今後
第 15 回	日本経済への提言
第 16 回	レポートの提出

到達目標

格差問題の現状を理解する。必用な基礎理論を理解する。

履修上の注意

自分の意見を積極的に発言すること。

予習・復習

予習を重視し、自分の意見をまとめておくこと。

評価方法

レポートの報告と授業中の発言を重視する。

テキスト

授業中に指示する。

教養演習Ⅱ　　花崎 正晴

授業概要

教養演習Ⅰに引き続き、経済学や経済現象の基礎を学びます。基本的には、ゼミ生全員が毎回指定された文献や資料を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	日本経済や世界経済の現状をどのようにみるか
第 2 回	為替レートとは何か
第 3 回	インフレとデフレ
第 4 回	金融政策・日銀、財務省
第 5 回	税金の問題をどのように考えるか
第 6 回	社会保障制度
第 7 回	金融機関の役割
第 8 回	企業が上場することの意味
第 9 回	コーポレート・ガバナンス
第 10 回	ESG と SDGs
第 11 回	起業をどのように考えるか
第 12 回	アメリカ経済
第 13 回	中国経済、東アジア
第 14 回	EU、ブレグジットとは何か
第 15 回	米中貿易摩擦
第 16 回	課題レポートの提出

到達目標

経済学や経済現象の基礎を理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。

予習・復習

指定された文献や資料を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

入門レベルのテキストを、初回に指示する予定です。

教養演習Ⅱ　　広瀬 明

授業概要

経済や経営の場では、様々な問題に直面する。経済学や経営学は、そうした問題に対処するためにどうしたら良いかについて、多くの知識を蓄えるための学問である。多くの問題は、過去に発生した同種の問題にどのように対処してきたかについて学べば、解決する。その時に必要なのが、データ処理である。過去の状況と現在のそれとは大きく異なる。過去にあって成功した事例も、現在に置き換えればうまく機能しないこともある。それは何故か、そして、ならばどのようにすれば良いか、については、データ集めで情報処理をする必要がある。本演習では、その導入の部分について、考察したい。

授業計画

第 1 回	はじめに（データ処理の有効性と有用性）
第 2 回	パソコンはどのようにして動いているのか
第 3 回	基本ソフト（OS）とアプリケーションソフト
第 4 回	表計算ソフトとは何か
第 5 回	Excel でできること、できないこと
第 6 回	まずは、表を作成しよう
第 7 回	続いて、グラフを作成しよう
第 8 回	どのデータにはどのグラフが効果的か
第 9 回	相対番地と絶対番地
第 10 回	コピーを有効に使おう
第 11 回	金利計算が簡単にできる方法
第 12 回	単利と複利
第 13 回	返済金を決定するのは、金利と返済期間
第 14 回	国債の利回りの計算方法
第 15 回	70 の法則
第 16 回	試験

到達目標

本演習では Excel を用いた情報処理ができるかどうか、が重要なテーマである。データを示されて、何を計算しどのように計算するのか、が的確に理解できれば目標達成である。

履修上の注意

演習を進めるにあたって、次の演習内容はその前の演習内容を理解していることを前提に進めることになる。欠席はしないようにすること。やむを得ず欠席する場合は、前の演習の内容を理解しておくこと。

予習・復習

つねにパソコンの Excel に触れておくことをお勧めする。演習で用いたもの以外のデータを処理してみることである。

評価方法

試験で、データを示し、的確にデータ処理できるかどうかを確認する。

テキスト

今のところ考えていないが、ブルーバックスあたりの新書を教科書に指定することも考えている。

教養演習Ⅱ　　文 智彦

授業概要

大学で学ぶため社会で活躍するために必須である論理的思考を身につけることが本演習の目的である。情報があふれかえる今の時代において、情報を取捨選択し、正しい情報を収集加工する能力は重要であり、それらをもって、正しい根拠に基づき主張し判断することが求められている。

論理的思考を学ぶことにより将来、企画作成、戦略構築、ビジネスモデルの変革、等々を行うための基本スキルを身につけるための指導をし、さらにしっかりと文献を読み、議論することにより、コミュニケーション能力を実践的に高めるための指導をする。

授業計画

第１回	概要ー論理的思考の重要性
第２回	イメージと思い込みの問題点
第３回	先入観と固定概念の問題点
第４回	メディア情報の問題点
第５回	二分論の問題点
第６回	正しい根拠の探し方
第７回	常識を疑う
第８回	役立つ情報の見極め方
第９回	簡単な数字の読み解き方
第10回	帰納法
第11回	演繹法
第12回	相関関係
第13回	因果関係
第14回	正しい結論の導き方①
第15回	正しい結論の導き方②
第16回	総括

到達目標

論理的思考の基本的な手法を理解し活用できるようになる。
実践的コミュニケーション能力を身につける。

履修上の注意

遅刻・欠席には厳しく対応する。積極的に発言できる学生の履修が望ましい。
文献の熟読、発表、議論を徹底して行う。

予習・復習

毎回課題・宿題を提出

評価方法

出席・課題・積極性、等々によって総合的に評価する。

テキスト

授業内で紹介する。

教養演習Ⅱ　　望月 文夫

授業概要

本演習では、法律、経済、経営、会計について、浅く広く話題を提供する。内容はその時々に話題になっていることを含め、受講生には毎回小グループを作ってディスカッションをしてもらい、進行役と報告役を決めてその結果を報告してもらう。演習の目的は、自分の意見を持つこと、それをはっきりと人前で話すこと、他人の意見をじっくり聞き色々な考え方があることを認識すること、である。なお、世の中の状況や受講生の希望によって、授業計画を変更する場合がある。

授業計画

第１回	オリエンテーション（演習の進行方法、自己紹介など）
第２回	人生とお金の関係
第３回	裁判所と裁判の状況
第４回	つみたてNISAとは何か
第５回	インターネットとGAFA
第６回	日本の人口（結婚・出産を含む）と社会状況
第７回	経済のグローバル化とは何か
第８回	為替と株式の基礎
第９回	大企業の研究（その１－ソフトバンク）
第10回	心理学と人々（そして企業）の経済活動
第11回	大企業の研究（その２－資生堂）
第12回	外国人との共生
第13回	大企業の研究（その３－武田薬品工業）
第14回	税制と民法
第15回	リスク管理（不祥事や災害などへの対応）
第16回	期末レポートの提出

到達目標

１．４年間の充実した学生生活を送るためのベースを構築すること
２．社会科学と人文科学、自然科学の関係を理解すること
３．グループディスカッションをスムーズに行うこと
４．学術的な文章を読めるようになること

履修上の注意

受け身になるのではなく、主体性を持って行動することが求められる。自分の意見を持つ際、思い付きや感情ではなく、論理的に考えることを身につけることを意識してもらう。他の学生の意見を聞いて、自分と違うのはどの部分かを意識し、その考え方を理解すること。

授業計画は決めているが、世の中の状況や学生の希望があれば適宜変更する予定である。できれば当日の朝、新聞に目を通すか、TV又はネットでニュースを確認してから参加してほしい。

予習復習

原則として、前もって資料を紹介する（又は渡す）のでよく読んだ上で持参すること。
毎回の授業の後、必ず復習することが求められる。

評価方法

平常点７０％、期末レポート３０％

テキスト

テキストは使用しないが、期間中１冊以上の書籍を購入するか、情報メディアセンターから借りてもらうことにしている。文献については適宜紹介する他、参考資料を配布する場合がある。

教養演習Ⅱ　　吉田 雄司

授業概要

本演習では、簿記中級レベルの学習を指導します。対象者は主に春期「教養演習Ⅰ」を受講した学生です。春期に続いて、日商簿記３級合格水準の演習を行います。夏季休暇中に猛勉強をし、すでに日商３級の基本問題は、解答可能の状況になっていることが前提です。試験勉強のコツは春期と同様ですが、今期は「合格」という結果をいかに出すかに焦点を当てていきます。第 156 回日商簿記検定日は 11 月 15 日（日）です。

授業の前半は、検定試験に向けた過去問題を中心に答案練習を行います。後半は試験の合否で、3 級合格者は工業簿記を開始し、不合格者は翌年の２月に向け再挑戦の準備に入ります。よって本演習は、次年度の「基礎演習」＝日商簿記２級合格にもつながる内容です。1 年次に日商簿記３級合格、2 年次に２級合格を、そして３年次には１級に合格し、さらに公認会計士短答式試験へとつなげます。

授業計画　（予定）

第１回	ガイダンス、小テストを実施し成績順座席指定をします。	
第２回	日商簿記検定試験３級過去問題①試算表と仕訳	
第３回	日商簿記検定試験３級過去問題②精算表と仕訳	
第４回	日商簿記検定試験３級過去問題③試算表と仕訳	
第５回	日商簿記検定試験３級過去問題④精算表と仕訳	
第６回	日商簿記検定試験３級過去問題⑤試算表と仕訳	
第７回	日商簿記検定試験３級過去問題⑥精算表と仕訳	
第８回	中間試験：日商簿記３級レベルの実践問題を出題予定	
第９回	日商簿記検定３級試験の問題解説と今後の勉強目標の再構築をします。	
第10回	３級合格者:日商簿記２級工業簿記開始。	３級再挑戦者＝2 月受験の準備開始
第11回	工業簿記の勘定連絡図の把握	過去問題集①仕訳・精算表
第12回	費目別計算（材料費、労務費、経費）	過去問題集②仕訳・試算表
第13回	個別原価計算	過去問題集③仕訳・精算表
第14回	総合原価計算	過去問題集④仕訳・試算表
第15回	標準原価計算	過去問題集⑤仕訳・精算表
第16回	定期試験	

到達目標

「日商簿記検定３級試験」の合格水準に到達すること。

履修上の注意

- 学習の目標を明確にすること。例：在学中に「公認会計士試験」に合格することなど。
- 秋期「中級簿記」を履修登録してください。
- 成績順の座席指定制。

予習・復習

- 日商簿記検定３級試験の過去問題集を３回解答すること。
- 『日本経済新聞』を定期購読し、毎朝１面、２面、３面は必ず目を通すこと。

評価方法

- 授業への参加意欲と中間試験、定期試験で総合評価をします。
- 授業態度不良者は「不可」とする。

テキスト

①TAC 株式会社(簿記検定講座) 編著（2020）『よくわかる簿記シリーズ'20 年 11 月検定対策 合格するための
過去問題集 日商簿記３級』TAC 出版
②東洋経済新報社（2020）『会社四季報業界地図 2021 年版』東洋経済新報社
（日商簿記３級合格者の教材等）
①TAC 出版編集部『みんなが欲しかった簿記の教科書 日商２級 工業簿記 第５版対応 DVD』 TAC 出版）
②滝澤ななみ『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商２級 工業簿記 第５版』TAC 出版